

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370298

研究課題名(和文) ガイドブックの詩学 19世紀湖水地方における文化的景観の変容と文学観光

研究課題名(英文) The Poetics of the Guidebook: The Transformation of the Cultural Landscape and Literary Tourism in the Nineteenth-Century Lake District

研究代表者

吉川 朗子 (Yoshikawa, Saeko)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：60316031

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、環境保護と観光開発の両立を目指す英国湖水地方の文化的景観が、19世紀の文学観光を通してどのようにして作られたかを検証したものである。ワーズワス作品のガイド的役割という視点からの再解釈、またこれまで文学研究では見過ごされてきた旅行ガイド、旅行記事、挿絵などにおける湖水地方表象の検証を通して、ワーズワスの自然に対する感受性がいかにして旅行者一般に受容され、環境保護的な思想が広まったかを明らかにした。この研究によって、湖水地方の文化的景観の特徴、これがどのように形成され英国国民の文化遺産となっていったか、その過程においていかにワーズワスが重要な役割を果たしたかが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research project explored how the cultural landscape of the English Lake District, in which tourism is compatible with environmental preservation, was formed through nineteenth-century literary tourism. By re-examining Wordsworth's works in terms of the poetics of the guidebook, and analyzing how the Lake District as Wordsworth's Country was represented in guidebooks, travel articles and illustrations in the nineteenth century, I demonstrated how Wordsworthian sensibility towards nature was cultivated and disseminated among tourist readers. As a whole, this research revealed the role of Wordsworth in the production of the cultural landscape of the Lake District, which is now regarded as a national cultural heritage to be protected for future generations.

研究分野：イギリス・ロマン主義

キーワード：ワーズワス 環境意識 旅行ガイド 文化的景観 英国湖水地方 文学観光 文化遺産

1. 研究開始当初の背景

文学観光は近年文化史・文化地理学で注目されているテーマであり、英文学の分野でも、英米においては、Nicola Watson や Paul Westover の研究をはじめ、これをテーマとする学会や論文集が続々と企画されるなど、注目され始めているが、本課題研究の開始当初、日本においては殆ど研究がなされていなかった。代表者は、ワーズワスの一般大衆への受容の在り様を探るため、湖水地方における文学観光という側面からリサーチを進めていたが、その過程で、旅行ガイドが持つ、文学作品を現実の場所とを結びつける役割に注目するようになった。旅行ガイドに牽引された文学観光が、文学作品に示された価値観、世界観を現実世界に結び付ける役割を果たし、集団的意識・集団的記憶の醸成、文化的景観の形成に深く関わっているということ、ワーズワスと湖水地方を例に検証したいと考えた次第である。それと同時に、文学受容研究に新しい光を当て、文学研究をひろく社会へ開く可能性も大いに秘めている文学観光研究を、日本においても広めていきたいという思いもあった。

2. 研究の目的

18世紀半ばより、ピクチャレスク旅行ブームのもと観光地として発展し始めた英国湖水地方は、19世紀を通してその文化的景観を大きく変容させる。この変化に大きな影響を与えたのがウィリアム・ワーズワスら湖水派詩人たちの言説であり、彼らの詩を多数引用したガイドブック、それに牽引された文学観光であった。これは英国湖水地方をイタリアの古典的風景という基準から解放し、土地に根差した物語を通して風景を経験することへと繋がり、この地方を英国の国民的文化遺産に仕立てることに寄与した。同時にまた、文学観光は、湖水地方を風景画の連続ではなく、ひとつの有機的な環境と見做す態度をも、一般旅行者の間に涵養した。つまり、旅行者の体験は、景観を風景画として鑑賞することから、風景のなかを移動し、物語が付与された記念碑的な事物や刻々と変化する自然現象(霧・雨・虹など)を五感で感じることに変わっていったと考えられる。

この変化には、交通革命とりわけ、鉄道による旅行の大衆化も関係しているだろう。古典の素養のない大衆が、ガイドブックに引用された自国の、地元の、自然を敬愛する作家ワーズワスの言説を通して、そして添えられた挿絵を通して、場所を経験していく

それによって愛国的であり、かつ自然愛好的な文化的景観が出来上がっていったとも言える。

Localでありながら national でもあり、視覚に訴えつつも文学的連想を核とし、環境保護と観光開発の両立を目指す湖水地方の文

化的景観が、19世紀の文学観光を通して形成されていく様、そしてそれが国民的財産、英国の文化遺産として認識されていく様を検証することを目指した。

3. 研究の方法

研究対象としては、主としてワーズワスの詩作品と旅行案内、ワーズワスその他の詩作品を引用している一般旅行ガイド、湖水地方を訪れた旅行者たちの言説(雑誌記事など)、ワーズワス作品に影響を受けた大衆文学を扱った。それらのテキストに添えられた挿絵も考察の対象とした。これらの資料の精査を通じて、ワーズワスが、自然に対するどのような態度・感受性を読者に涵養しようとしたのか、それはガイドブックなどを通して一般旅行者にどのように受容されたのか、発信と受容の両方を探った。また、その過程で環境保護的な意識が旅行者たちのなかにもどのようにして生まれていき、広まっていったのか、湖水地方を国民的財産と見做してこれを保護しようという意識がいかに育まれていったのかを、新聞記事、湖水地方保護をめぐる言説などを通して探った。

資料は購入の他、図書館相互利用制度やインターネットアーカイブを通して入手した。また、国際学会出席のために渡英した際に、大英図書館、スコットランド国立図書館を利用したほか、湖水地方の新聞についてはケンダル図書館、手稿についてはケンダル公文書館やワーズワス図書館などを利用して調査を行った。

4. 研究成果

(1) ワーズワス受容と湖水地方観光

これまで研究を進めてきた19世紀における英国湖水地方観光の変容とワーズワスの一般大衆への受容の関係について単著にまとめ、英国の出版社より出版した(*William Wordsworth and the Invention of Tourism, 1820-1900*, Ashgate 2014)。この本に関しては国内外の12の専門誌、新聞で書評されたほか、5点の専門書、論文、研究専門ウェブサイトにも引用されており、一定のインパクトを与えられたと思う。また、書評を通して与えられたコメントからは、本研究課題を遂行するうえでも様々なヒントを与えられた。

(2) ワーズワス作品のガイド的性質

まず、ワーズワスの『湖水案内』第2版と共に出版された『ダドン・ソネット』(1820)のガイド的性格について検討を行った。いかにこのソネット集が読者あるいは旅行者たちを教え導くことを意識した作品であるかということ、作品の精読を通して明らかにする一方、ガイドブック、旅行記事、挿絵などの検証を通して、いかにこの作品が、ダドン渓谷という人知れぬ自然美を観光地化する

ることに繋がったかも示した。さらに、この場所の静謐な美が観光によって損なわれることなく保全されたことには、自然に対する敬意の念を涵養するという、ワーズワスの詩が果たした役割も大きいことを指摘した。

ついで、『逍遙』(1814)の再評価を行った。この作品は今でこそあまり読まれていないが、ヴィクトリア朝期の湖水地方旅行ガイドに多数引用されたことにより、旅行者たちの自然に対する感受性を養っていくことになった。他方旅行者たちは、ガイドブック内の引用を通してワーズワスの詩をどう読めばいいかを学ぶことにもなった。このように、ワーズワスの詩が環境保護と観光産業を両立させる湖水地方の文化的景観の基礎作りにはいかに貢献し、他方で観光を通してワーズワス詩を受容する感受性がいかに養われていったか、という双方向的な影響関係を、具体的な作品分析を通して明らかにできた。

さらに、「願掛けの門」(1829)という小品をめぐる視覚表象、旅行ガイドや庶民向け雑誌における受容の変遷について検証をおこなった。作品が観光文化を通して現実の場所と結びつき、さらには作品から意味づけされた場所が旅行者・地元の人々の想像力を掻き立て、集団的記憶、文化的景観を作っていく様子を明らかにした。

この成果は、ワーズワス国際学会においてそれぞれ研究発表、招待講演を行ったのち、論文にまとめて公刊した。とりわけの成果『The Lake District through The Excursion: The Reception of Wordsworth and Tourism』については、日本英文学会賞を受賞するなど、一定の評価は得られたと思う。については、「願掛けの門」がコピーライトの問題とからんで複雑な受容のされ方をしていることを詳らかにし、副産物として、コピーライトと作品流通をめぐる問題についても明らかにした。

また、『序曲』(1850)や『馭者』(1819)などの作品についても、観光文化との関わりからの再評価を行い、現在発表の準備を進めている。

(3) 文学観光と鉄道

ワーズワス作品の熱心な読者であり、教育者、社会改革者でもあったウィリアム・ハウイトを取り上げ、自然に対するワーズワス的な感受性を庶民レベルにまで広げるにあたって彼の果たした役割について考察した。ハウイトは庶民の自然に対する感性を養う上で大事な媒介物として、鉄道・雑誌・挿絵を挙げている。

ハウイトも指摘するように、文学観光を中・下層階級に広めるにあたっては、鉄道が大きな推進力となったが、実際のところ、

鉄道が連れてきた旅行者たちは、どのようにワーズワス・カントリーを旅行し、受容したのか。それをライダル・マウントとダヴ・コテージの庭をめぐる旅行者たちの言説を通して検証した。ワーズワスの庭を訪れた鉄道旅行者たちは、詩人の作った庭を通して詩人との霊的一体感を味わい、ワーズワスの自然に対する感受性を共有することになった。詩作品に表明された詩人の自然観が、詩人の作った庭を通して読者(旅行者)に受け入れられる様子を明らかにした。

については、別の科研課題で行った研究と合わせる形で論文にまとめ、共著として公刊した。二つの書評で取り上げられたが、おおむね好評価であった。については、東京大学で行われた国際学会において口頭発表を行った後、論文にまとめ、学会誌に投稿し掲載された。

19世紀半ば以降整備されていった鉄道は湖水地方における文学観光を大いに促進したが、ワーズワス自身はこれに反対していた。彼はなぜ反対したのか、ワーズワスの旅の詩学という観点から探った。その際、黎明期の自動車旅行者たちがワーズワスの考えを共有していることを確認し、徒歩旅行者、鉄道旅行者、自動車旅行者の間での旅行体験の違い、空間認識の違いについて考察した。他方、1840年代におけるワーズワスの鉄道反対運動と、これに影響を受けてジョン・ラスキン、H. D. ローンズリーを中心に行われた1880年代の鉄道反対運動とを比較し、湖水地方における環境保護的感受性の変化について検証した。この成果については、国際学会で発表を行ったほか、一部は2017年末に発行予定の国際共著書籍に収められることになっている。

(4) 文学観光と戦争

当初は予定していなかったが、湖水地方における文学観光の盛衰には第一次世界大戦の与えた影響は無視できないことに気づき、リサーチを行った。戦争は、湖水地方における海外からの旅行者を激減させたが、他方、国内の旅行者を増やすことになった。これは1793年から1815年にかけての英仏戦争の間にイギリス人の旅行先がヨーロッパから国内、とりわけ湖水地方に向かったこととも平行である。実際、当時の人々もこの平行を意識した。ワーズワスがこの期間に書いた自由と独立に捧げる愛国的なソネット群は再評価され、一種のワーズワス・リバイバルが起きたのだ。これが湖水地方の観光に与えた影響について検証し、国際学会で発表を行った。なお、これについてはまだ論文として発表していない。自動車旅行についての研究と併せて、平成29年度から始める新しい科研課題(大衆旅行時代におけるロマン主義精神の継承—湖水地方の観光と文化的景観

の変容)に組み込んでいき、将来的には本の出版につなげたい。

(5) シンポジウム

本研究課題を遂行する目的のひとつに、文学観光研究という分野を日本の文学研究会に広めたいということがあった。この目的のために論文発表以外に行ったこととして、シンポジウムの企画がある。日本英文学会の準備委員であったため、自身はパネリストとして加わることはできなかったが、2016年5月に京都大学で行われた全国大会において、「近代英国と Literary Tourism -- 多様な文学受容と文化的アイデンティティの視点から」というタイトルのシンポジウムを企画し、行った。ウォルター・スコットやシェイクスピアといった作家を取り上げた一方、文学観光が成立しない場合、文学観光がナショナル・トラスト形成に繋がっていくケースなどを取り上げ、文学観光研究が、受容研究や文化的アイデンティティ研究、文学遺産研究などに繋がっていく可能性について、示すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

(1) Saeko Yoshikawa, 'The Lake District through *The Excursion*: The Reception of Wordsworth and Tourism'. *Studies in English Literature*, English Number 57 (2016): 1-21. 査読有

(2) Saeko Yoshikawa, 'The Garden that Connects: A Community of Wordsworth and his Readers'. 『英文学研究 支部統合号』8 (2016): 143-150. 査読有

(3) Saeko Yoshikawa, 'A Guide that does not Guide: The Duddon Sonnets as a Guide'. 『神戸外大論叢』65 (2015): 103-116. 査読無

(4) 吉川朗子「剽窃か感受性の共有か—ワーズワス、著作権、伝承」『神戸外大論叢』64 (2014): 85-101 査読無

[学会発表](計 6件)

(1) Saeko Yoshikawa, 'Travel and Transport: Wordsworth, Railways, and Roadfaring'. Biannual Conference of the Romantic Studies Association of Australasia, Wellington (New Zealand), 16 February 2017.

(2) Saeko Yoshikawa, 'Tourism and Tradition: "The Wishing Gate" and Other Poems'. The 45th Wordsworth Summer Conference, Ambleside (UK), 14 August 2016.

(3) Saeko Yoshikawa, 'Wordsworth and the Wars: Patriotism and Preservation'. The 44th Wordsworth Summer Conference, Ambleside (UK), 9 August 2015.

(4) Saeko Yoshikawa, 'The Lake District through *The Excursion*'. The 43rd Wordsworth Summer Conference, Ambleside (UK), 12 August 2014. 招待講演

(5) Saeko Yoshikawa, 'Edward Thomas: A Contemplative Poet'. Kyoto Conference on Coleridge and Contemplation, Kyoto Notre Dame University (Kyoto), 27 March 2015.

(6) Saeko Yoshikawa, 'The Duddon Sonnets as a Guide'. The 42rd Wordsworth Summer Conference, Ambleside (UK), 13 August 2013.

[図書](計 2件)

(1) 吉川朗子他(共著) 御輿哲也、新野緑、吉川朗子編著『言葉という謎—英米文学・文化のアポリア』大阪教育図書、2017年、全453頁、71-88

(2) Saeko Yoshikawa, *William Wordsworth and the Invention of Tourism, 1820-1900*. Ashgate, 2014. 全274頁

[産業財産権]

- 出願状況(計0件)
- 取得状況(計0件)

[その他]
特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者
吉川 朗子 (YOSHIKAWA, Saeko)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 60316031

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
なし